

研究データエコシステムの 現在地と将来展望

国立情報学研究所

オープンサイエンス基盤研究センター 主任学術基盤研究員
研究データエコシステム構築事業推進センター PM

中野 恵一

学術情報基盤オープンフォーラム2025
2025年6月16日 14:50-16:20

本日の構成

第一部（講演）

研究データエコシステム構築事業：
前半の振り返りと後半への展望

第二部（パネルディスカッション）

挑戦の現場のリアルから考える、研究データ管理
—限られた資源で突破する知恵と連携

質問はSlidoで受け付けております。
投票もお願いします！
＜パネルディスカッション前に一度、
締め切ります。＞

<https://www.slido.com>

→ アクセスコード: #3362754



第二部（パネルディスカッション） 《敬称略》

挑戦の現場のリアルから考える、研究データ管理
—限られた資源で突破する知恵と連携

● パネリスト：

- 伊藤 江梨（愛知県立芸術大学 芸術情報・広報課 研究支援担当）
- 石垣 靖人（金沢医科大学 総合医学研究所副所長 教授）
- 佐々木 奈三江（徳島大学 情報センター/学術情報部情報企画課 課長）
- 松下 幸之助（大分大学 知的財産管理部門 部門長 / URA室 室長）
- 山地 一禎（国立情報学研究所 教授）

● モデレータ：

- 浅川 槇子（名古屋大学 情報基盤センター 特任助教）

第一部 アウトライン

<https://www.slido.com>

→ アクセスコード: #3362754

1. 事業概要と取り巻く環境
2. 本事業の終了時には何が成果として達成されるのか？
3. それに向けて、何に取り組んでいるのか？
4. 前半期（R4-R6）の取組みの成果は何か？
5. そして、後半期に向けて

AI等の活用を推進する 研究データエコシステム構築事業（2022～2026年度）

- 我が国の研究力の飛躍的發展を図るため、各分野・機関の研究データをつなぐ全国的な研究データ基盤の構築・高度化・実装等と、AI解析等の研究データ基盤の活用に資する環境の整備を行う、研究DXの中核機関群を組成し、その活動成果を統合した“研究データエコシステム”を構築する

● 全国的研究データ基盤の構築・高度化・実装とデータの利活用

- ユーザーニーズを踏まえながら、研究データの管理・蓄積・利活用・流通といった点で適切かつ実用的な機能を確保した全国的な研究データ基盤を整備し、AI活用・データ駆動型研究を推進
- 構築が進む各機関・各分野のリポジトリやデータプラットフォームとの連携・接続

● 研究データ基盤の活用に係る環境の整備

- 効率的なAI活用のための、機械可読データの統一化や標準化等を含めたルール・ガイドライン整備、データマネジメント人材育成支援等、ユーザー視点に立って研究データ基盤を最大限に活用するための環境整備

AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業

令和7年度要求・要望額 11億円
(前年度予算額) 11億円



背景・課題

- ポストコロナの原動力として「デジタル」「AI」が最重要視され、データ駆動型研究やAI等の活用による大量の研究データ分析が世界的に進展している中、大規模かつ高品質なデータの利活用の推進を、様々な分野・機関を超えて進めていくことが鍵。
- 我が国でもオープン・アンド・クローズ戦略に基づき全国の研究者が、分野を問わず必要な研究データを互いに利活用することで、優れた研究成果とイノベーションを創出していく環境の整備が急務。
- 昨年に引き続き本年7月開催のG7科技大臣会合でも、オープンサイエンスを進める旨の共同声明が出されており、研究データ利活用は世界的な潮流。

本事業で解決する課題

- ✓ 様々な研究データの利活用が、研究者の負担なく円滑に促進されるよう、研究データ基盤の高度化（他機関連携も含む）を進める。
- ✓ 適切な研究データの管理・公開、分野・機関横断的な検索といった研究データ管理・利活用が持続的に行われる仕組みを構築。
- ✓ 各研究機関が、オープンサイエンス・オープンアクセスの世界的な潮流に対応していくための体制整備にも貢献。

【G7ホローニャ科学技術大臣会合 共同声明】（令和6年7月9日-11日開催）

- ・ 公的資金による学術出版物及び科学データへのオープンで公共的なアクセスを含む、科学的知識及び適切な研究成果の公平かつ責任ある普及を通じてオープン・サイエンスを拡大するため、G7メンバー間及び国際的な科学コミュニティ全体の協力を促進する。

【学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針】

（令和6年2月16日統合イノベーション戦略推進会議決定）

- (4) 研究成果発信のためのプラットフォームの整備・充実
 - ・ 研究成果を誰もが自由に利活用可能とするための発信手段として、研究データ基盤システム（NII Research Data Cloud）、その他のプラットフォーム、学術論文等の研究成果を管理・利活用するためのプラットフォームの整備・充実に対する支援を行う。

必要な取組（事業期間：令和4年度～令和8年度）

① 全国的な研究データ基盤（NII RDC※）を高度化

- ・ 研究者が研究により時間を割くことが可能となり、研究データ利活用が促進されるよう、管理データの取捨選択・メタデータ付与、データの出所・修正履歴の管理など、研究データ管理に係る関係者の作業負担を軽減するための機能等を開発

※NII-RDC（Research Data Cloud）：研究データサイクルを支える3つのシステムにより構成
管理基盤（GakuNin RDM）、公開基盤（JAIRO Cloud）、検索基盤（CiNii Research）

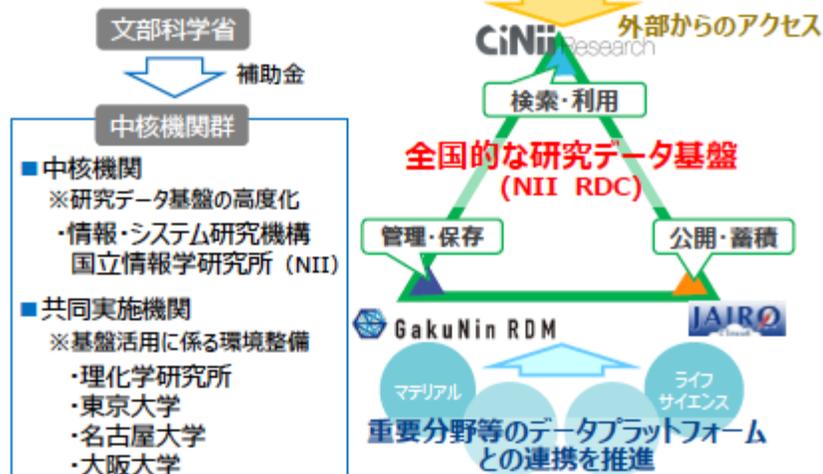
② 研究データ基盤の活用を促進するための環境整備

- ・ 全国の研究者が統一的な基準でデータ管理できるよう、機械可読データの統一的な記述ルールやデータ管理・公開ガイドライン整備、データマネジメント人材育成支援、各機関の研究データ基盤との連携等を実施

③ オープンアクセスの推進に向けた機能強化等

- ・ オープンアクセス推進に向けて、全国の様々な分野・機関の研究者にとってNII RDCがより使いやすい環境となるよう、ユーザビリティ機能充実、研究成果・研究者情報に係る外部システム等との連携強化、オープンアクセス関連調査等を実施

【事業スキーム】



（担当：研究振興局参事官（情報担当） 付）

オープンサイエンス時代の 研究データ基盤構築に向けた国内の政策的経緯

- 2015年3月：内閣府「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会」報告書
- 2016年1月：政府「第5期科学技術基本計画」
- 2016年2月：文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会「学術情報のオープン化の推進について」
- 2016年5月：G7茨城・つくば科学技術大臣会合 つくばコミュニケ（共同声明）
- 2016年5月：政府「科学技術イノベーション総合戦略2016」
- 2016年7月：日本学術会議「オープンイノベーションに資するオープンサイエンスのあり方に関する提言」（提言）
- 2017年6月：政府「科学技術イノベーション総合戦略2017」
- 2018年6月：政府「統合イノベーション戦略」
- 2019年6月：政府「統合イノベーション戦略2019」
- 2020年6月：日本学術会議「オープンサイエンスの深化と推進に向けて」（提言）
- 2020年7月：政府「統合イノベーション戦略2020」
- 2021年3月：政府「第6期科学技術・イノベーション基本計画」
- 2021年4月：政府「公的資金による研究データ管理・利活用に関する基本的な考え方について」
- 2021年6月：政府「統合イノベーション戦略2021」
- 2022年6月：政府「統合イノベーション戦略2022」
- 2023年5月：G7科学技術大臣会合
- 2023年6月：政府「統合イノベーション戦略2023」
- 2024年6月：政府「統合イノベーション戦略2024」

統合イノベーション戦略2023（2023年6月）

（公的資金による研究データの管理・利活用の推進）

「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」（令和3年4月27日統合イノベーション戦略推進会議決定）において、公的資金による研究データに関する概要情報（メタデータ）を**中核的な基盤である研究データ基盤システム（NII Research Data Cloud）**上で検索可能とし、オープン・アンド・クローズ戦略に基づく研究データの管理・利活用を推進するビジョンを示した。ここでは、公募型の研究資金の全ての新規公募分についてメタデータ付与を行う仕組みを2023年度までに導入するとともに、大学等の研究開発を行う機関においてデータポリシーの策定と機関リポジトリへの研究データの収載等を進めることとしている。…また、**2022年度に開始された「AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」**において、引き続き各分野・機関の研究データをつなぐ全国的な研究データ基盤の高度化や、研究機関・研究者に対する研究データ基盤の利活用に向けた普及・広報活動を推進する。

（学術論文等のオープンアクセス化の推進）

また、本年5月に日本で開催されたG7広島サミット及びG7仙台科学技術大臣会合を踏まえ、我が国の競争的研究費制度における2025年度新規公募分からの**学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた国の方針を策定する。**

オープンアクセス加速化事業 公募要領概要

令和5年度補正予算額 100億円

目的等

2025年度から新たに公募を行う競争的研究費制度による学術論文及び研究データの即時オープンアクセスの義務化を見据え、オープンアクセスに係る全学的なビジョン（オープンアクセス方針・研究データポリシー等）に基づく事業計画等を策定している大学等を対象として、研究成果の管理・利活用システムの開発等の支援を行い、各大学等の即時オープンアクセスに向けた体制整備・システム改革を加速させることを目的とする。

事業内容

- 対象機関 国公立大学及び大学共同利用機関（申請者：機関の長）※共同申請も可
- 各大学等のビジョンに基づく即時オープンアクセスに向けた体制整備・システム改革に係る以下の経費を支援

①機関リポジトリ等のシステム開発高度化等

（システム全般、学内外データベース等連携システム、リポジトリ登録支援システム、研究データストレージ等）

②オープンアクセス支援策（戦略的なAPC支援等）、③オープンアクセス関係経費（旅費、謝金等）

④各種環境整備（図書館等業務効率化に係る整備、広報活動費、リポジトリ等運営費 等） 等

- 大学の規模等に応じて3つの申請区分を設定

申請区分

- ・区分1 1件 2～6億円程度
- ・区分2 1件 1～2億円程度
- ・区分3 1件 5千万円程度～1億円程度

採択予定数

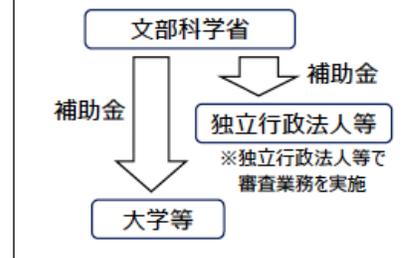
※申請数や申請規模により変動

- ・区分1は10件程度
- ・区分2と区分3合わせて40～50件程度

支援期間

- ・交付決定日～令和7年3月31日

【事業スキーム】



審査の観点等

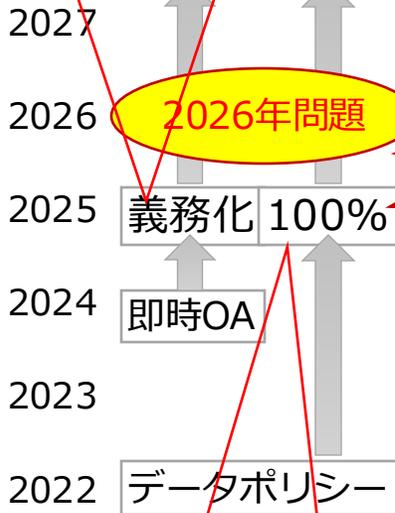
- 各大学等の即時OAに係る構想の具体性、有効性、実現可能性等を以下の観点で審査
 - ・各大学等が目指すビジョンが示され、OA化に向けた具体的計画や目標値がクリアか
 - ・全学的なマネジメント体制が構築され、戦略的なOA化システム開発・支援策が実行されるか
 - ・事業期間終了後も自立的・継続的な取組が期待できるか 等

直近、大学が共通に直面している課題 「データポリシー策定・即時OA義務化」

<https://www.slido.com>

→ アクセスコード: #3362754

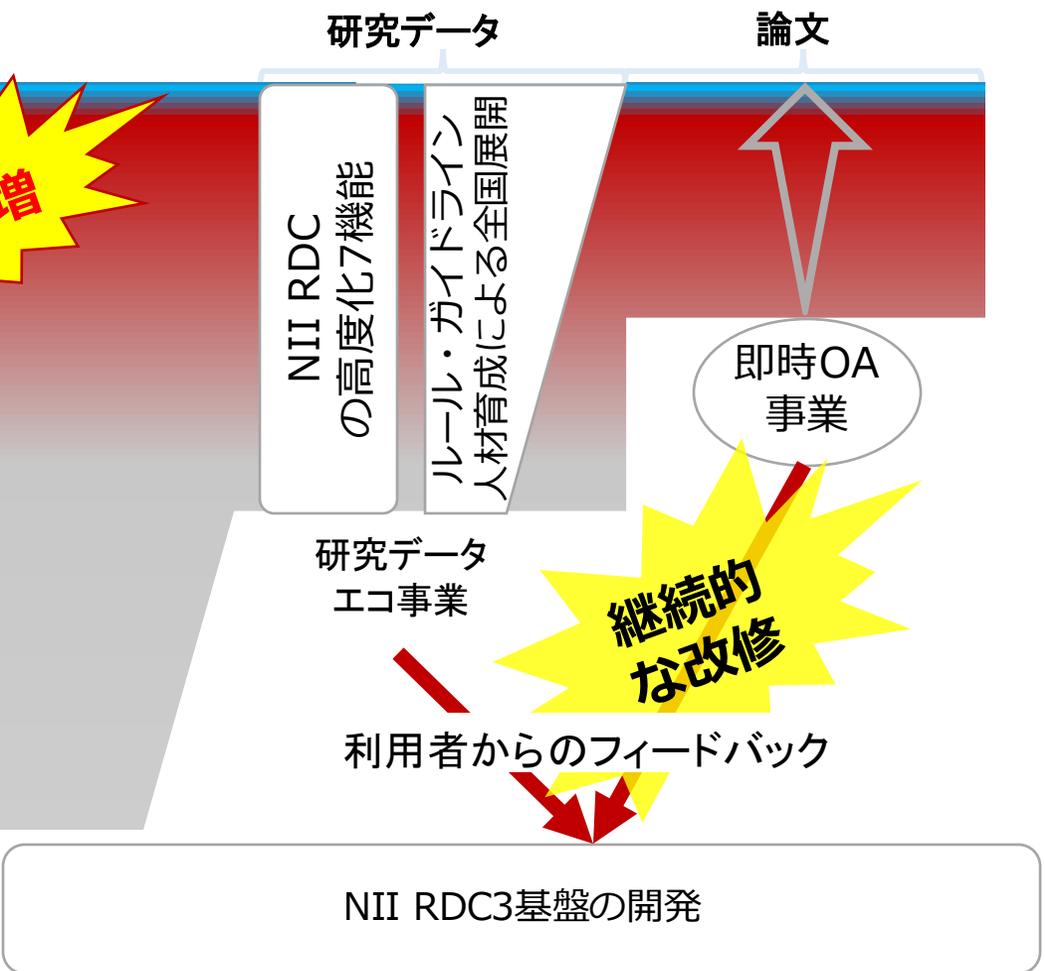
2025年度から新たに公募を行う競争的研究費制度による学術論文及び研究データの**即時オープンアクセス**の義務化



利用増

機関リポジトリを有する全ての大学・大学共同利用機関法人・国立研究開発法人において、2025年までに、**データポリシーの策定率が100%**になる。

オープンサイエンスの推進



事業の実施体制

<https://www.slido.com>

→ アクセスコード: #3362754

中核機関

事務局担当
(専従PMの配置)



信頼性・再利用性・秘匿性の側面も考慮した上で、研究データの管理・蓄積・利活用・流通を実践するために必要となるNII RDCの高度化

運営委員会

- ・本事業の司令塔機能
- ・チーム間の連携推進
- ・共同実施機関以外からの全国的な意見の取りまとめ
- ・各チームの進捗確認
- ・持続的事業戦略の立案 (将来構想チーム)
- ・海外の類似した活動との比較や連携についての検討

各チームからリーダーを含む数名が参加

共同実施機関

リーダー機関

プラットフォーム
連携チーム



共同実施機関が運用するデータPFのデータをNII RDCから検索可能とする連携

融合・活用開拓
チーム



分野間でのデータ連携を前提とした複数のシーズ・ユースケースを創出

ルール・ガイドライン
整備チーム



研究データの効果的・効率的な活用のためのルールやガイドラインの整備

人材育成
チーム



データマネジメント人材のスキルセットの整理および必要な教材等の整備

実施内容は各機関で相互連携。事業の進捗状況に応じて共同実施機関を拡充

役割分担

プラットフォーム連携チーム



理化学研究所

- ・ 機関内サービス等とNII RDCの連携機能の整理と設計
- ・ 計測機器等からの大量データを効果的に管理するための要件整理と機能開発
- ・ 管理対象となるメタデータの設計と実証
- ・ 関連する高度化機能との仕様調整と共同開発

ルール・ガイドライン整備チーム



名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

- ・ 研究データの活用に適した機械可読データの統一的な記述ルール設計
- ・ 研究データの公開に必要な要項や作業フローの整備
- ・ 研究データを適切に取扱うための指針のまとめ
- ・ 学内整備のための事例形成

研究データ基盤高度化チーム



NII RDC利用のプラクティス

融合・活用開拓チーム



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

- ・ 異なる分野間でのデータ活用やデータ連携に発展する取り組みを精査
- ・ 異なる分野間でのデータ活用やデータ連携に関する具体的なユースケースを創出
- ・ ユースケースをまとめたツールキットの作成とそれを用いた広報活動

データ管理公開の組織的支援

人材育成チーム



大阪大学
THE UNIVERSITY OF OSAKA

- ・ 人材育成を主とした研究データ管理体制の構築を推進する学内組織構築の事例形成
- ・ 研究データ管理人材に求められる標準スキルに関する検討
- ・ 研究データ管理人材育成のためのカリキュラムの作成、オンライン学習コースの整備

本事業の終了時には何が成果として達成されるのか？

- 本事業の終了時に実現される姿（成果イメージ）
 - 研究者が安全にデータを共有・活用し、分野を越えて協働できる“共通基盤”が整備され、「全国規模のエコシステム」が稼働しはじめる。
- 具体的には：
 - 全国の研究者が使える共通インフラ（NII RDC）の整備と改善が進み、日常的に利用される状態になり、分野・機関の壁を越えたデータ連携が可能になる。
 - ルール・人材・教材がセットで整備され、研究現場のデータ管理が制度的に根付くように、研究公正とオープンサイエンスを両立する運用体制が各機関で機能し始める。
 - AIや異分野データを活用した新しい研究や、社会課題に資するユースケース、産学連携や教育現場との接続といった好事例が創出され始める。
 - 事業終了後も発展可能な、技術・制度・人材の基本的なモデルが形成され、自立的運用と継続的な機能向上が可能な構造に向けての見通しが得られる。

NII RDCを7つの側面から高度化

<https://www.slido.com>

→ アクセスコード: #3362754

活用

コード付帯機能

データ・プログラム・解析環境のパッケージ化と流通機能を提供し、研究成果の再現性を飛躍的に向上

信頼

データプロビانس機能

データの来歴情報の管理から利用状況を把握でき、データ公開へのインセンティブモデルを提供

蓄積

セキュア蓄積環境

安全で強固なデータの保存・保護機能を有する超鉄壁ストレージを提供し、機微な情報も安心して保全

セキュア蓄積環境

管理

データガバナンス機能

計画に基づきデータ管理等を機械的に支援し、DMPをプロジェクト管理に不可欠な仕組みへと変革

流通

キュレーション機能

専門的なキュレーションを実践できるエコシステムを構築し、データ再利用の促進に寄与

保護

秘匿解析機能

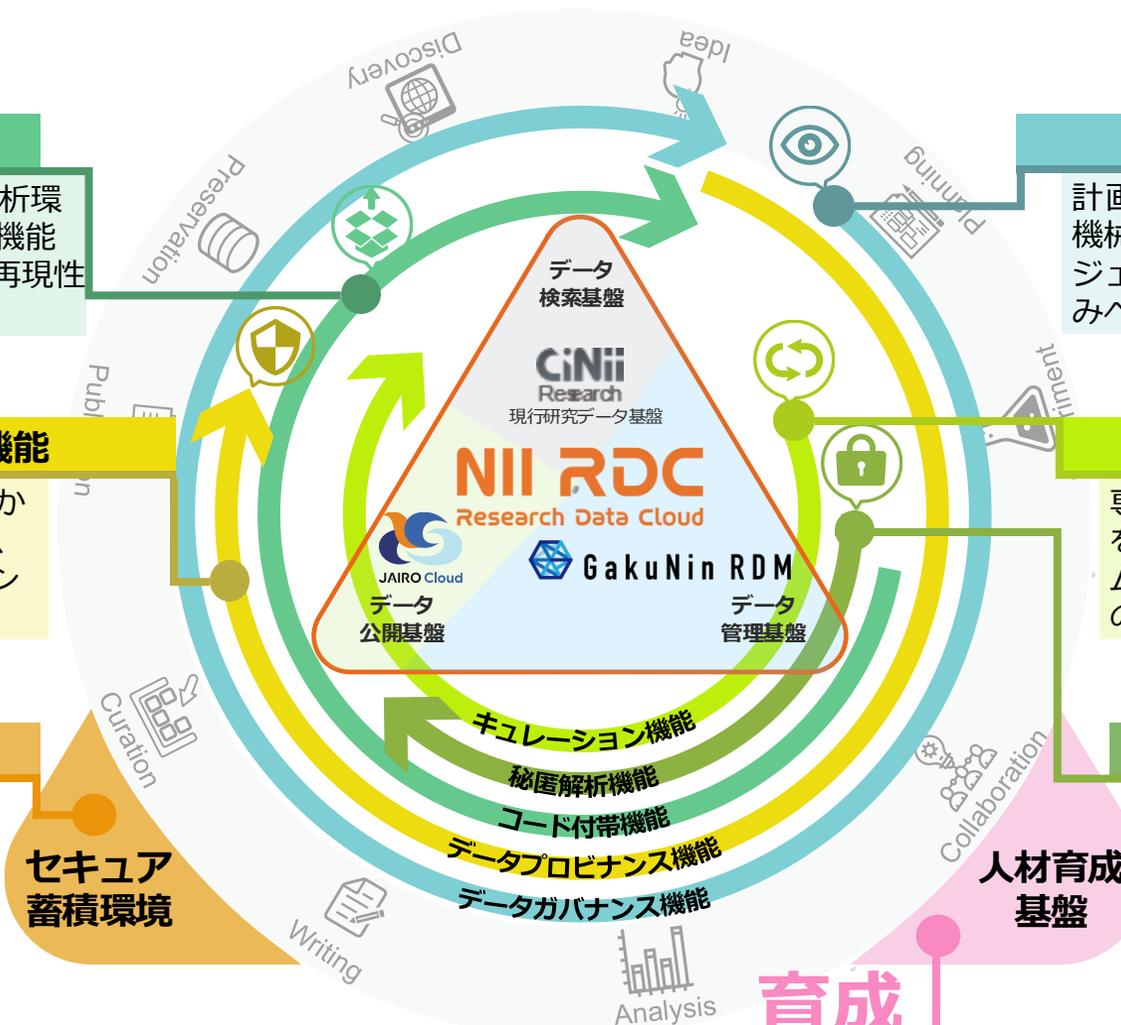
秘密計算技術で機微な情報も安心して解析できる環境の提供で、新しいデータ駆動型研究の世界を開拓

人材育成基盤

育成

人材育成基盤

RDMに必要なスキルを学ぶ環境を提供し、全ての研究者を新しい科学の実践者へと育成

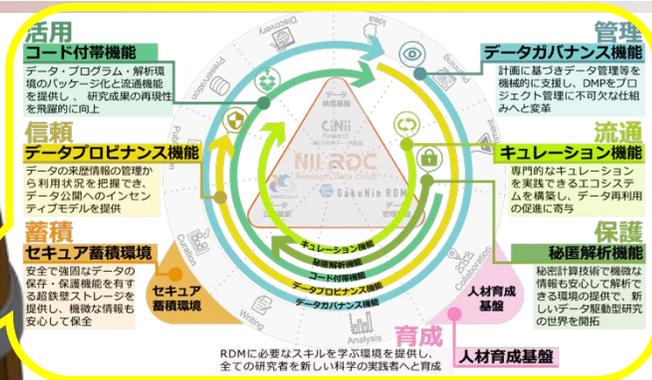
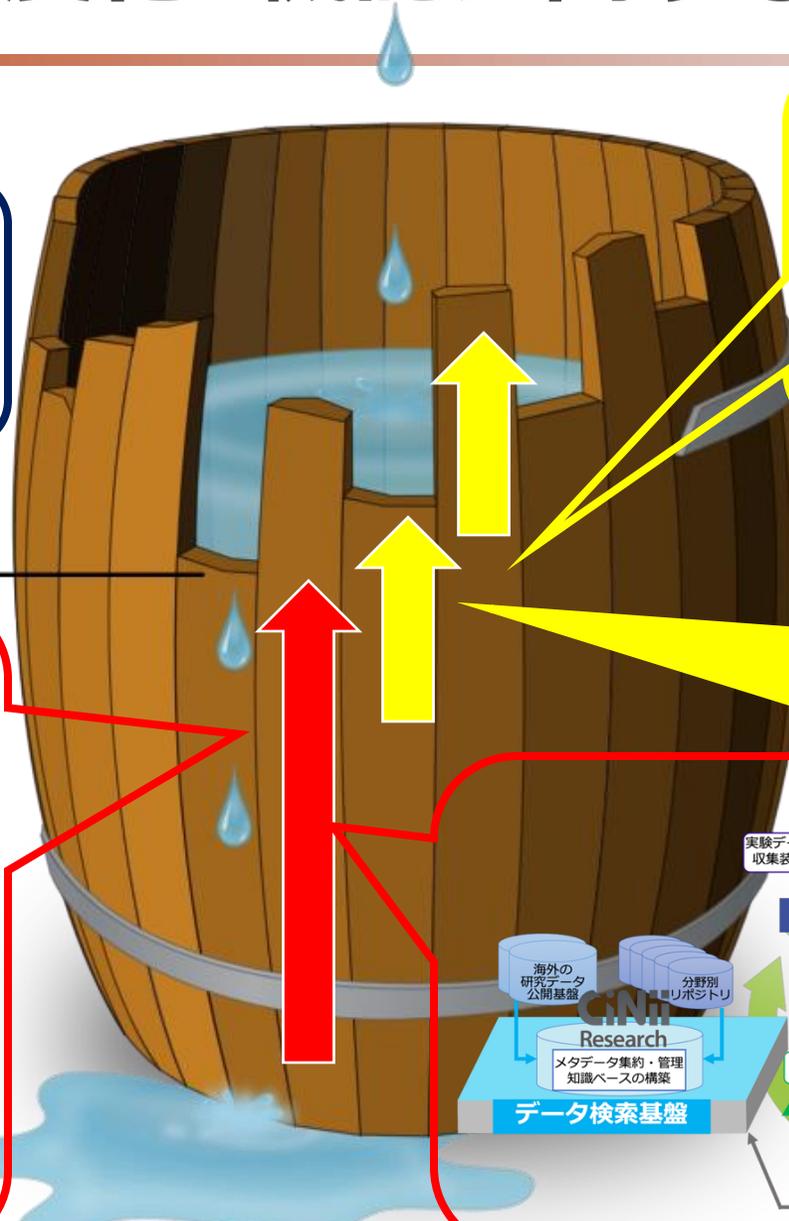


3基盤と高度化7機能に関する、開発の主眼

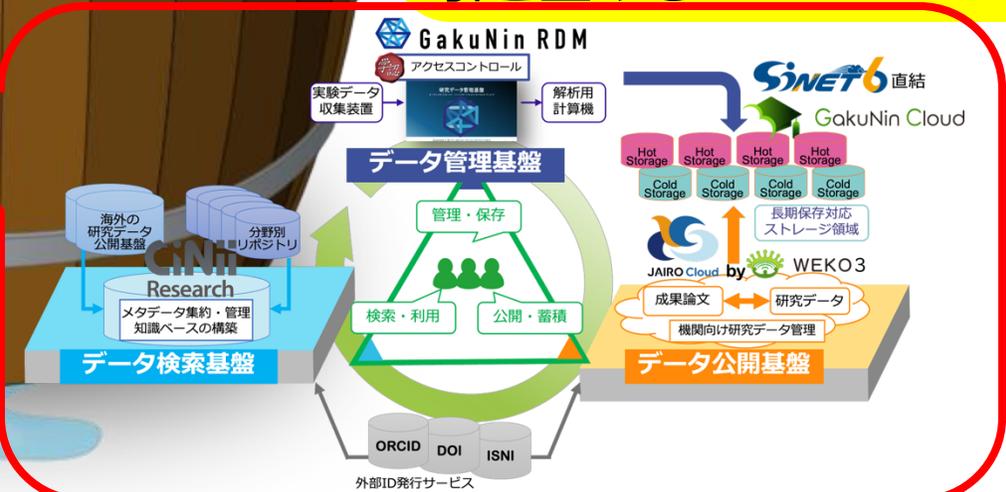
最も性能が低い機能が、システム全体の性能を規定する

Minimum

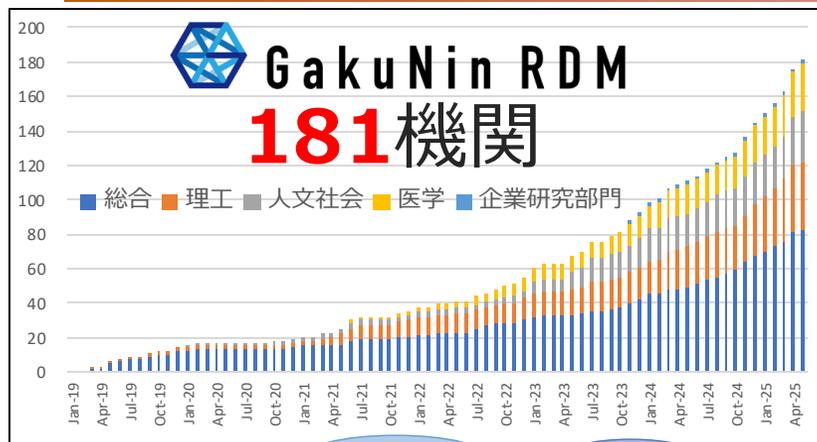
3基盤はじめ、既に一般提供済みの機能であっても、その改善を継続的に実施しなければ、ユーザの利用満足度の維持・向上にはつながらない



高度化7機能のように、特定の機能を「尖らせる」ことにより、付加価値を向上させ、将来的なシステム全体のキャパシティ (= 最大性能) を引き上げる



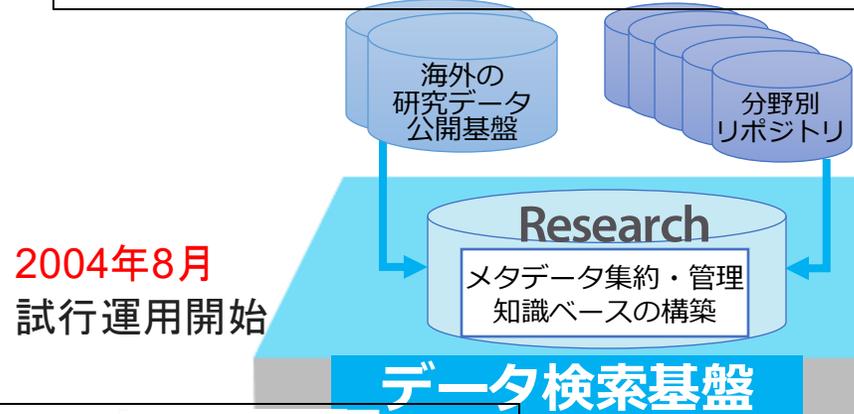
System of SystemsとしてのNII RDC



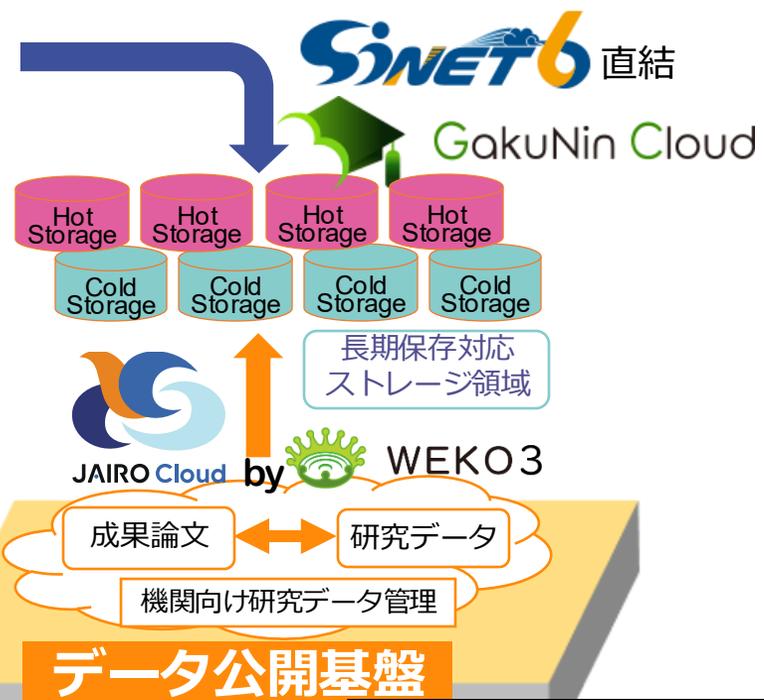
2021年2月 運用開始



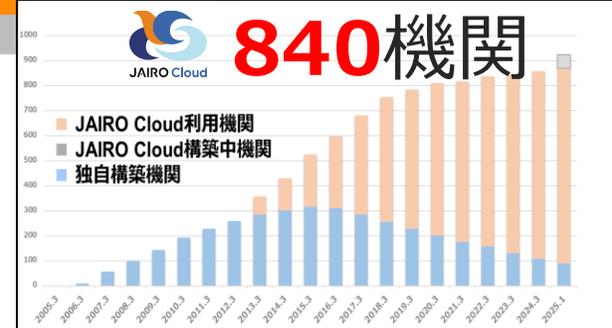
解析機能 利用機関数=112
学認LMS 利用機関数=135



データ管理基盤



2012年4月 運用開始



NII RDCに関わるトラック

<https://www.slido.com>

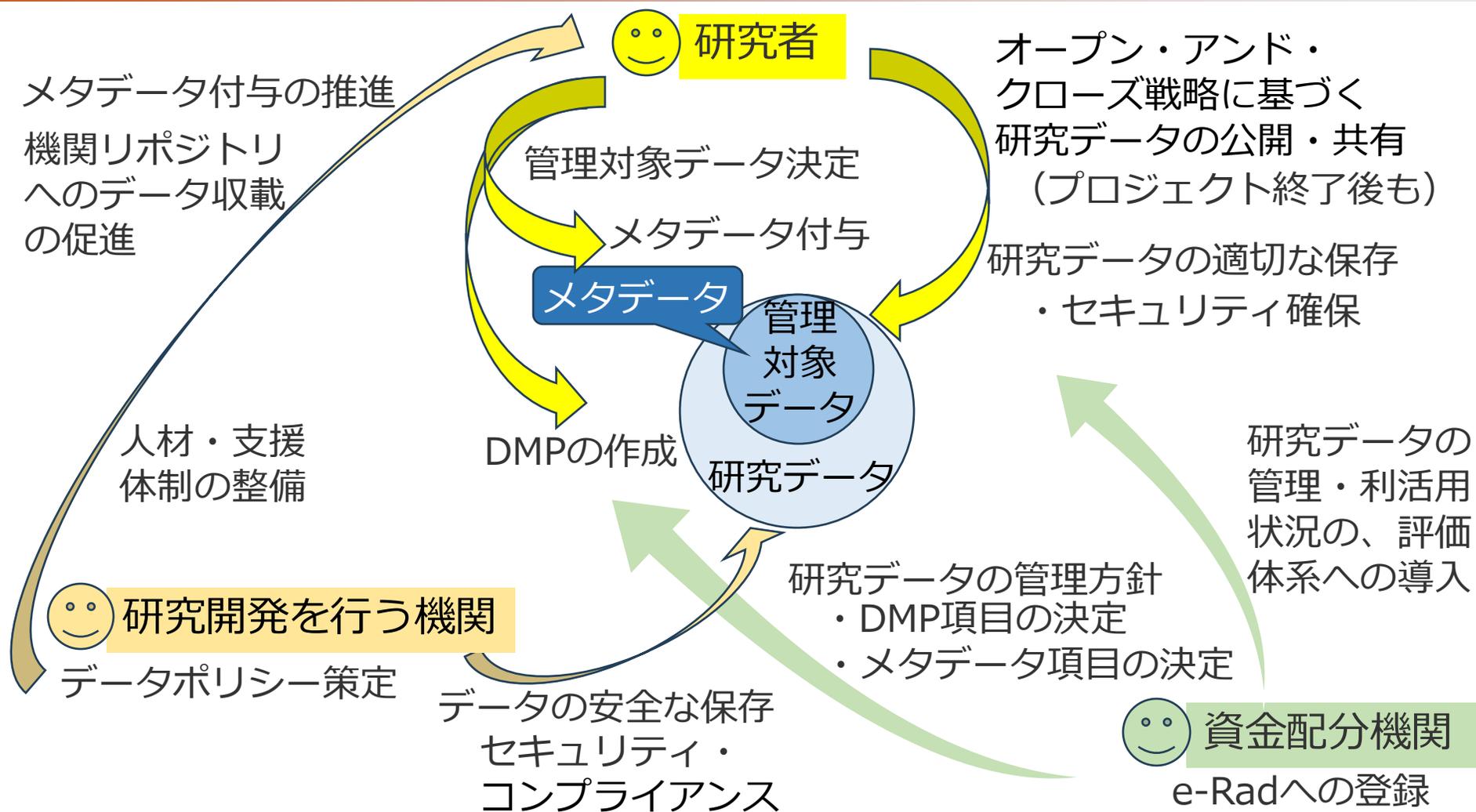
→ アクセスコード: #3362754

6/17 10:00-11:30	研究データ管理体制構築と学内展開	人材育成 研究データ基盤
6/17 12:30-14:00	学認LMSの実践事例とデータ活用最前線	人材育成 研究データ基盤
6/17 12:30-14:00	これからどうなる？ CiNii Research	研究データ基盤
6/17 14:30-16:00	OAポリシー履行支援のための新システム	研究データ基盤
6/17 16:30-18:00	研究データポリシー策定の次の一手を考える	研究データ基盤
6/18 12:30-14:00	何から始める？ 研究データ管理基盤「GakuNin RDM」	研究データ基盤
6/18 14:30-16:00	ガバナンスで進化する研究データ管理	研究データ基盤
6/18 16:30-18:00	GakuNin RDM×JAIRO Cloud連携意見交換会	研究データ基盤

各ステークホルダーの責務

<https://www.slido.com>

→ アクセスコード: #3362754



System of Systemsとしての本事業

プラットフォーム連携チーム



理化学研究所

- 機関内サービス等とNII RDCの連携機能の整理と設計
- 計測機器等からの大量データを効果的に管理するための要件整理と機能開発
- 管理対象となるメタデータの設計と実証
- 関連する高度化機能との仕様調整と共同開発

ルール・ガイドライン整備チーム



名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

- 研究データの活用に適した機械可読データの統一的な記述ルール設計
- 研究データの公開に必要な要項や作業フローの整備
- 研究データを適切に取扱うための指針のまとめ
- 学内整備のための事例形成

研究データ基盤高度化チーム



NII RDCと分野PFの連携

分野

NII RDC利用のプラクティス

データ管理公開の組織的役割

組織

データ管理公開の組織的支援

融合・活用開拓チーム



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

- 異なる分野間でのデータ活用やデータ連携に発展する取り組みを精査
- 異なる分野間でのデータ活用やデータ連携に関する具体的なユースケースを創出
- ユースケースをまとめたツールキットの作成とそれを用いた広報活動

人材育成チーム



大阪大学
THE UNIVERSITY OF OSAKA

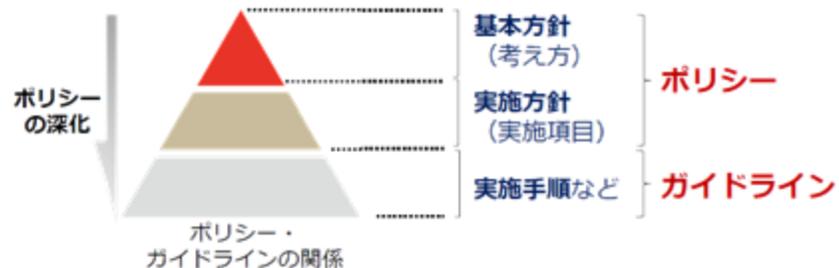
- 人材育成を主とした研究データ管理体制の構築を推し進める学内組織構築の事例形成
- 研究データ管理人材に求められる標準スキルに関する検討
- 研究データ管理人材育成のためのカリキュラムの作成、オンライン学習コースの整備



ルールガイドライン・人材育成チームの活動

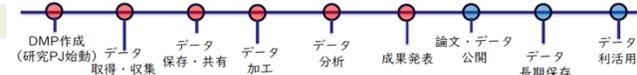
ルール・ガイドラインひな形

ポリシー／ガイドライン／分野への適応



教材＋人材育成

研究データライフサイクル

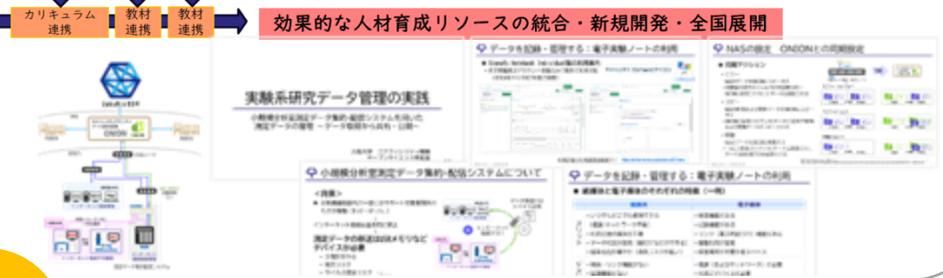


研究代表者	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
研究者	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ポスドク 院生・大学生	?	?	?	○	○	○	?	?	?
研究支援者									
研究系	◎								
情報系			◎						
図書系							○	◎	◎
...									

九州大
JPCOAR × AXIES
研究データエコシステム構築事業 (名古屋大)
研究データエコシステム構築事業

効果的な人材育成リソースの統合・新規開発・全国展開

研究データ管理支援人材に求められる標準スキル (ver.0.1)



双方が連携した活動による相乗効果

融合開拓、PF連携チームの活動

<https://www.slido.com>
→ アクセスコード: #3362754

プラクティスの育成

ユースケース創出課題 採択課題一覧

No	代表者	所属	課題名	カテゴリ
1	角谷 和俊	関西学院大学	学習者の批判的思考を促進するオンライン教育アクセス基盤の構築：質問の匿名化方式の開発と大規模教育コンテンツ研究データセットの活用推進	教育
2	早川 裕史	北海道大学	地球人間科学における 3D データ活用基盤の構築	環境
3	藤 耕偉郎	東京大学	都心部における人流変容メカニズムの解明と予測モデルの構築	人流
4	喜屋武 享	琉球大学	個人人流データを用いた身体活動量の推定と地理的・社会経済的環境から見た地域特性の解明：地域住民の健康増進に向けた活動量シュミレーションシステムの開発	人流
5	佐藤 琴	山形大学	地域資料データの継承とオープン化を旨とした地域横断型データ共有基盤の構築	地域
6	徳地直子	京都大学	地域デザインのためのインクルーシブ・データプラットフォームの構築	地域
7	山下 俊介	北海道大学	地域文化資源データの共創のための汎用プラットフォームの開発	地域
8	伊藤 文人	東北大学	地域コミュニティを基盤とした国際コミュニティ・データベースの構築	地域
9	能勢 正仁	名古屋市立大学	研究データの可視化・検索性の向上を目指したメタデータ変換システムの開発と実装	システム
10	高須 淳宏	国立情報学研究所	インタラクションエンコーダによる研究データ基盤横断探索システムの研究開発	システム
11	森田 敦郎	大阪大学	オープン・エスノグラフィGakuNin RDMと連携したデータ管理ソフトウェアによる異質的研究のコラボレーションとオープンデータ化の研究	システム
12	小村 正義	情報・システム研究機構	分野横断型データベースAMIDERの活用による次世代型データ活用スキームの構築	システム
13	木村 映香	愛媛大学	国際的なRWD研究を実現する医療情報分析基盤の検討	医療・バイオ
14	吉岡 京子	東京大学	乳児の股関節脱臼の見落としゼロを目指す 異常判別AIとコミュニティクリーニングシステムの開発	医療・バイオ
15	林 美加子	大阪大学歯学部附属病院	健康医療データの質を保証する安全安心な医療AIサービスプラットフォームの構築	医療・バイオ
16	守村 直子	滋賀医科大学	マルチスピーシーズ霊長類脳画像の知識型データ共有エコシステムの構築：データ駆動型 脳科学を推進する共創型国際研究基盤	医療・バイオ
17	大橋 瑞江	兵庫県立大学	細根フェノロジーの解明に向けた森林土壌の多地点自動解析システムの構築	医療・バイオ
18	加沢 知敏	東京大学	昆虫脳情報処理の研究基盤としてのマルチ解析プラットフォームの構築	医療・バイオ
19	安岡 孝一	京都大学	形態素解析・係り受け解析AIにおけるデータ管理とデモ環境の統合	人文
20	中村 覚	東京大学史料編纂所	Archivematicaを用いた人文学データのキュレーションプロセスの自動化に関する試み	人文
21	菊池 信彦	国文学研究資料館	古典籍テキストデータを活用したデータ駆動型人文学のための研究資源構築プロジェクト	人文
22	尾上 陽介	東京大学史料編纂所	異分野共創による史料学DXの確立	人文
23	原 正一郎	京都大学	人文学DXを指向する情報基盤の構築	人文
24	大向 一輝	東京大学	人文学研究における「読み」を共有するためのデジタルアーカイブ構築・AI活用ワークフローの確立	人文
25	塚越 柚季	東京大学	模範文学文献の統一デジタルアーカイブ化に向けたパイプライン構築	人文
26	中西 秀哉	核融合科学研究所	核融合研究データのオープンな利活用基盤「プラズマ・核融合クラウド」の構築と整備	実験

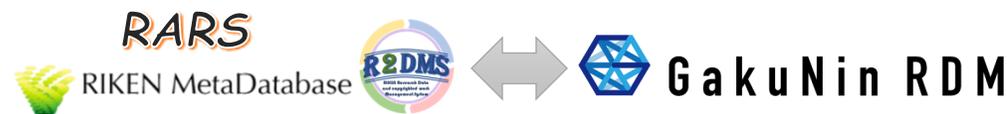
https://www.nii.ac.jp/creded/nii_ac_jp_creded.html

研究基盤連携

共通基盤連携



組織基盤連携



実験機器連携



NII RDCの有効活用と基盤連携による相乗効果

ユースケース創出事業 - 採択課題一覧【1/2】

https://www.nii.ac.jp/creded/nii_ac_jp_creded.html 2025年3月現在

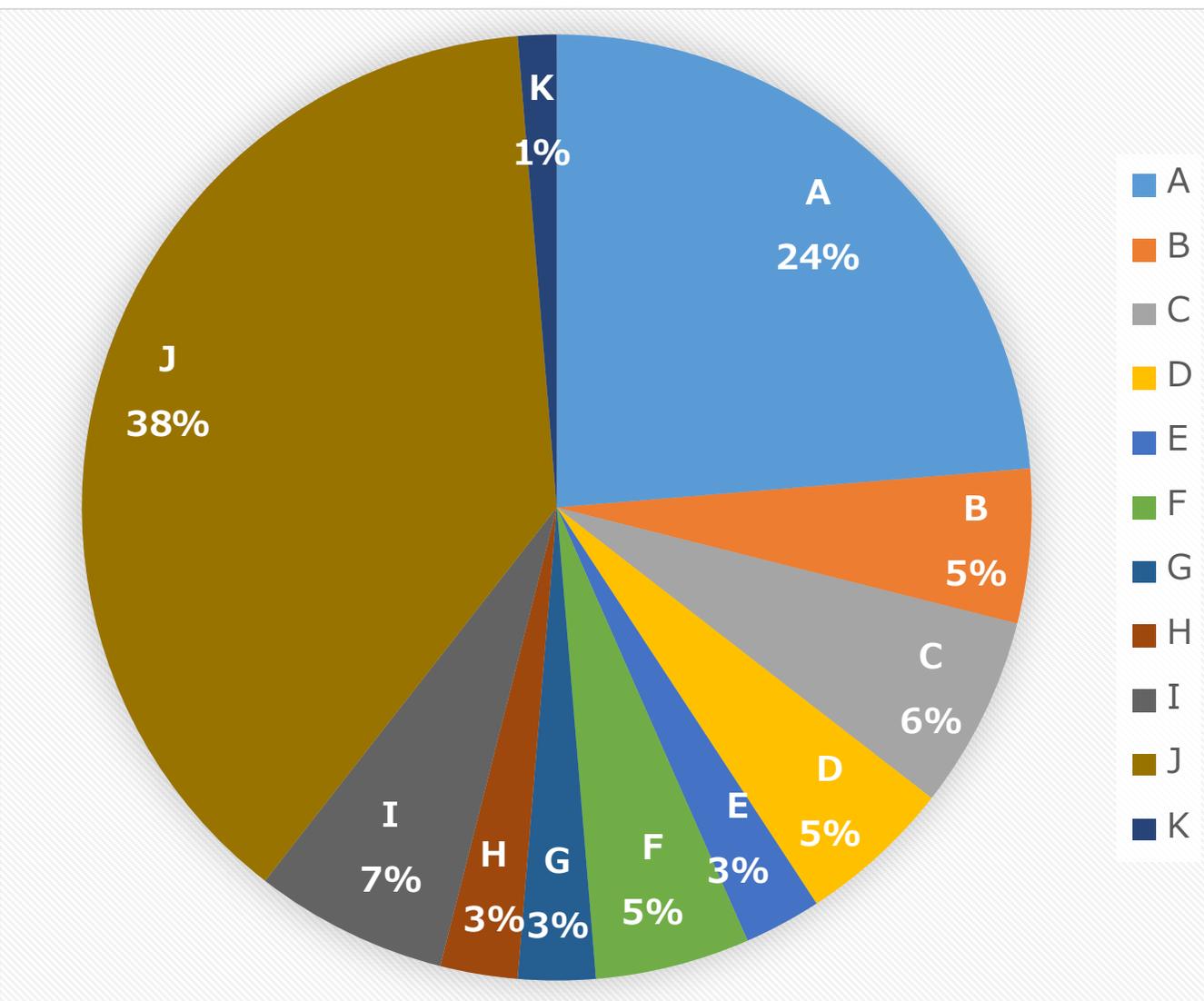
代表者	所属機関	課題名	分野	
黒嶋 敏	東京大学	共創型情報システムによる紙文化財の多角的解析と活用	A	D
尾上 陽介	東京大学	異分野共創による史料学DX の確立	A	E
徳地 直子	京都大学	地域デザインのためのインクルーシブ・データプラットフォームの構築	A	F
塚越 柚季	東京大学	楔形文字文献の統一デジタルアーカイブ化に向けたパイプライン構築	A	J
橋本 健広	中央大学	大規模言語モデルを使用した文学研究のための研究資源およびオープンプラットフォームの構築	A	J
大向 一輝	東京大学	人文学研究における「読み」を共有するためのデジタルアーカイブ構築・AI活用ワークフローの確立	A	J
菊池 信彦	国文学研究資料館	古典籍テキストデータを活用したデータ駆動型人文学のための研究資源構築プロジェクト	A	J
山下 俊介	北海道大学	地域文化資源データの共創のための汎用プラットフォームの開発	A	J
佐藤 琴	山形大学	地域資料データの継承とオープン化を目指した地域横断型データ共有基盤の構築	A	J
中村 覚	東京大学	Archivematica を用いた人文学データのキュレーションプロセスの自動化に関する試み	A	J
森田 敦郎	大阪大学	オープン・エスノグラフィ:GakuNin RDM と連携したデータ管理ソフトウェアによる質的研究のコラボレーションとオープンデータ化の研究	A	J
小川 潤	国立情報学研究所	「行為」の構造化を軸とするデジタル・ヒストリー研究データと研究プロセスの接続に関する研究	A	J
早川 裕弐	北海道大学	地球人間圏科学における3Dデータ活用基盤の構築	B	F
飯野 孝浩	東京大学	テラヘルツ電波多波長観測データと学習・シミュレーションの融合による、月・小惑星表層構造リモートセンシング解析情報基盤の確立	B	J
中西 秀哉	核融合科学研究所	核融合研究データのオープンな利活用基盤「プラズマ・核融合クラウド」の構築と整備	B	J
小野 寛太	大阪大学	大規模実験データの計測・解析・共有・公開を通じた知の創出のためのエコシステム構築	D	J
華井 雅俊	東京大学	全国規模の材料データプラットフォームにおけるAIベース検索システムの構築	D	J
佐藤 和信	大阪公立大学	ESR装置群を基軸とする研究データ流通・利活用エコシステムの構築	E	D
徳永 友花	東京大学	森林長期データを活用した分野横断的研究プラットフォームの設計	F	J
大橋 瑞江	兵庫県立大学	細根フェノロジーの解明に向けた森林土壌の多地点自動解析システムの構築	F	J

ユースケース創出事業 - 採択課題一覧【2/2】

https://www.nii.ac.jp/creded/nii_ac_jp_creded.html 2025年3月現在

代表者	所属機関	課題名	分野	
守村 直子	滋賀医科大学	マルチスピーシーズ霊長類脳画像の知識型データ共有エコシステムの構築:データ駆動型脳科学を推進する共創型国際研究基盤	G	H
伊藤 文人	東北大学	地域コミュニティを基盤とした国際コミュニティ・データベースの構築	I	A
吉岡 京子	東京大学	乳児の股関節脱臼の見落としゼロを目指す異常判別AIとコミュニティスクリーニングシステムの開発	I	H
木村 映善	愛媛大学	国際的なRWD 研究を実現する医療情報分析基盤の検討	I	J
林 美加子	大阪大学	健康医療データの質を保証する安全安心な医療AIサービスプラットフォームの構築	I	J
喜屋武 亨	琉球大学	擬似人流データを用いた身体活動量の推定と地理的・社会経済的環境から見た地理的地域特性の解明:地域住民の健康増進に向けた活動量シミュレーションシステムの開発	I	K
安岡 孝一	京都大学	形態素解析・係り受け解析AIにおけるデータ管理とデモ環境の統合	J	A
原 正一郎	京都大学	人文学DXを指向する情報基盤の構築	J	A
角谷 和俊	関西学院大学	学習者の批判的思考を促進するオンライン教育アクセス基盤の構築: 質問応答支援方式の開発と大規模教育コンテンツ研究データセットの利活用推進	J	A
高須 淳宏	国立情報学研究所	インタラクションエンコーダによる研究データ基盤横断探索システムの研究開発	J	A
大向 一輝	東京大学	専門家・市民・AIの協働によるデジタルアーカイブ構築に向けたデータプロビナンス基盤のデザイン	J	A
能勢 正仁	名古屋市立大学	研究データの可視化・検索性の向上を目指したメタデータ変換システムの開発と実装	J	B
松平 拓也	金沢大学	コアファシリティにおける研究データ管理アーキテクチャの構築	J	C
山田 裕久	奈良工業高等専門学校	高専における分析データ集約・配信モデルシステム構築	J	C
蕭 耕偉郎	九州大学	都心部における人流変容メカニズムの解明と予測モデルの構築	J	C
近堂 徹	広島大学	AIOps によるネットワーク運用効率化に向けたデータ駆動型共有ナレッジベースの構築	J	C
小川 康一	群馬大学	衛星コンステレーション観測データ共有基盤の開発	J	C
小財 正義	情報・システム研究機構	分野横断型データベースAMIDERの活用による次世代型データ利活用スキームの構築	J	G

ユースケース創出事業 - 採択課題分野

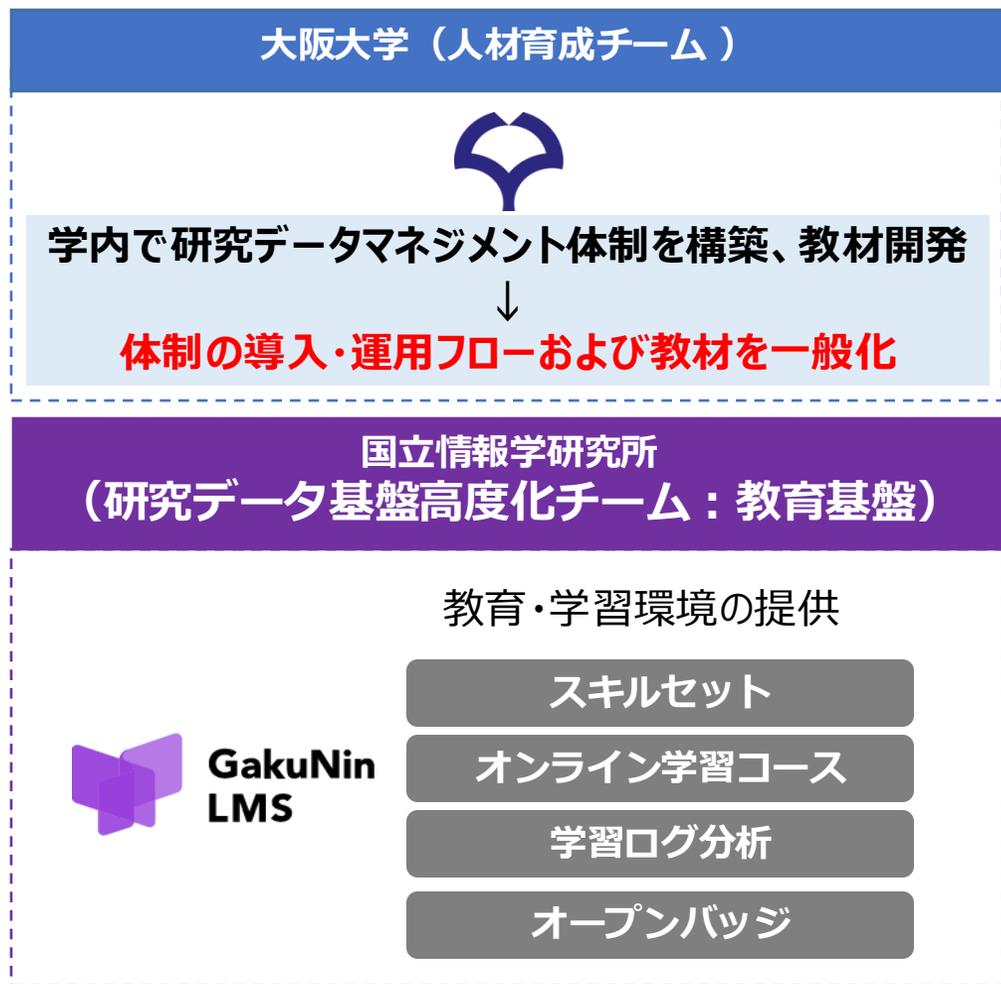


累計38件の採択テーマの応募内容から、関連性が高い「研究分野」の上位2区分を集計し、その割合を示している
 情報学分野 (J) が多いのは当然として、人文社会科学分野のテーマ (A) が多く採択されていることは特徴的である

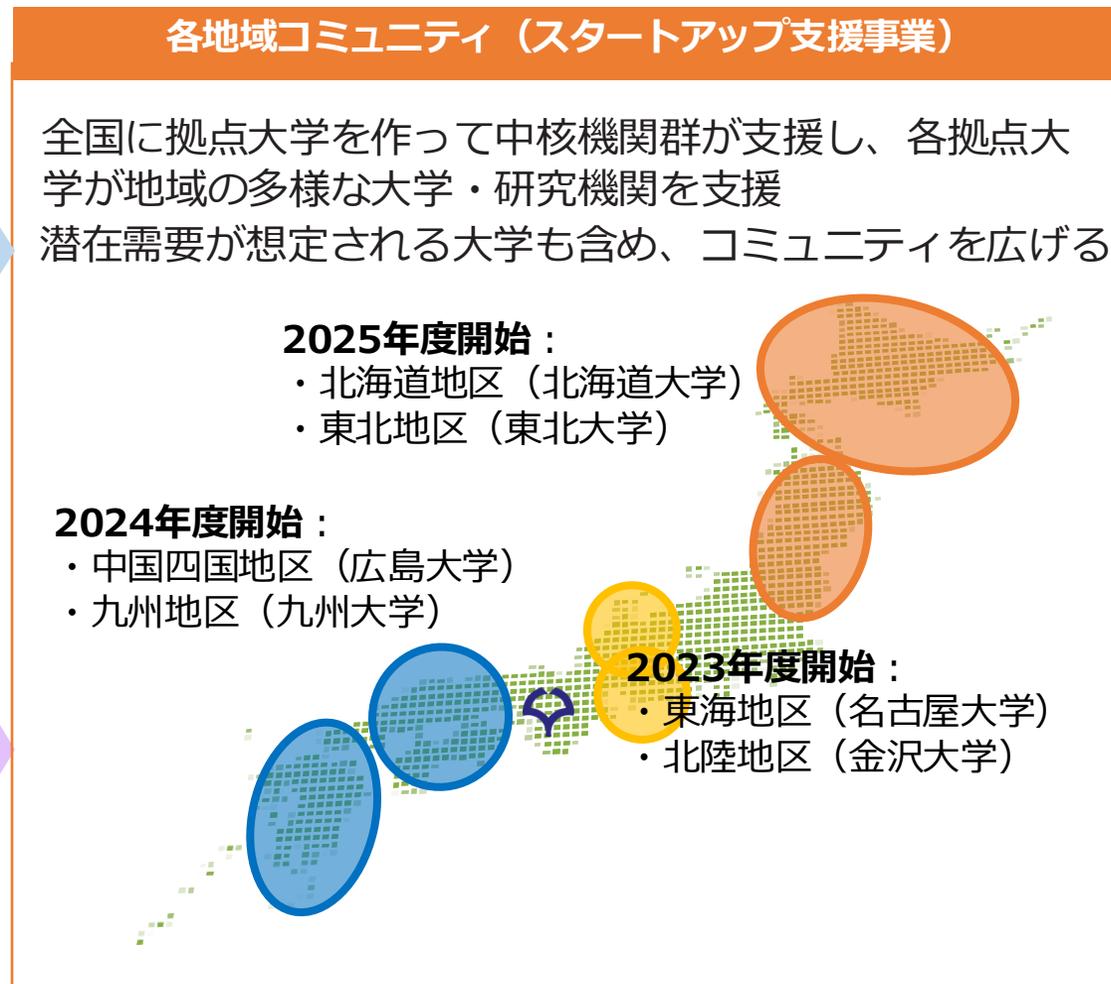
大区分	分野名
A	人文社会科学分野
B	数理・物理・地球宇宙科学分野
C	工学分野
D	応用物質・エネルギー工学分野
E	化学・材料科学分野
F	農学・生物資源科学分野
G	生命科学・生物学分野
H	医薬生命科学分野
I	医学・医療科学分野
J	情報学分野
K	環境科学分野

各分野に含まれる研究領域は以下の通り:
<https://www.kaken.jsps.go.jp/kaken1/daichukubunList.do>

全国展開につながる、ネットワーク／コミュニティを形成 - 研究データポリシー策定支援に始まり、人材育成との連携へと展開中 -



情報および教材を含む学習環境を提供



基盤高度化チームは大阪大学内の教材開発に対し、NII開発の複数の教材作成用のツールを提供。一般化された教材の普及として、学習ログ分析/バッジ発行を含む学認LMSを核とした学習環境を提供。

前半期（R4-R6）の取組みの成果は何か？

日本の研究現場で、データを「使いやすく・共有しやすく・守りやすく」するための土台づくりを進めた。主な成果は以下の通り：

- ① 使いやすく：研究データを整理・管理・解析できる機能の拡充
- ② 共有しやすく：機関・分野をまたいだ連携基盤の整備
- ③ 守りやすく：セキュアかつ秘匿性の高いデータ活用環境の整備
- ④ 利活用する&支える人材を育てる：教材整備と学習環境の構築
- ⑤ 利活用の好事例を形成・異分野融合への展開
- ⑥ 全国展開につながる、ネットワーク/コミュニティを形成



<https://www.nii.ac.jp/creded/deliverables.html>

このように、研究の「見えないインフラ」を着実に整え、次のステップとして全国に広げていく準備ができた

Research Data Ecosystem Symposium

RDES 2024

研究データエコシステム構築事業 シンポジウム2024

デジタル技術とデータ活用による研究活動の変革(研究DX)を全国的に促進するため、「ユースケースの形成・普及」「データ共有・利活用の促進」「研究デジタルインフラ等の効果的活用」を一体的に進めることを目的とした文部科学省の事業です。国立情報学研究所(NII)は、理化学研究所、東京大学、名古屋大学、大阪大学とともにこれを受託し(2022年度～最大5年間)、実施に取り組んでいます。

本シンポジウムでは政策的な観点と利用者の視点の両面からエコシステムの構築に向けて議論します。

初日は、本事業のユースケース創出課題として採択された多彩な研究テーマを紹介してもらうとともに、研究データ基盤の利用に関する知見や、システム改善の提言を含む本事業への要望等もお伝えいたします。

2日目は、本事業に取り組んでいる中核機関群の取り組み状況を共有し、さらに2023年度から開始した地域コミュニティでの普及活動である「研究データ管理スタートアップ支援事業」の最新状況についても共有いたします。研究データ基盤に関心を持つ大学等の機関の方に、本事業の最新状況と目指す姿をお伝えします。

どなたでもご参加いただけますので、ふるってご参加ください。

10月8日(火)

13:00~18:30 (情報交換会: 18:30~)

10月9日(水)

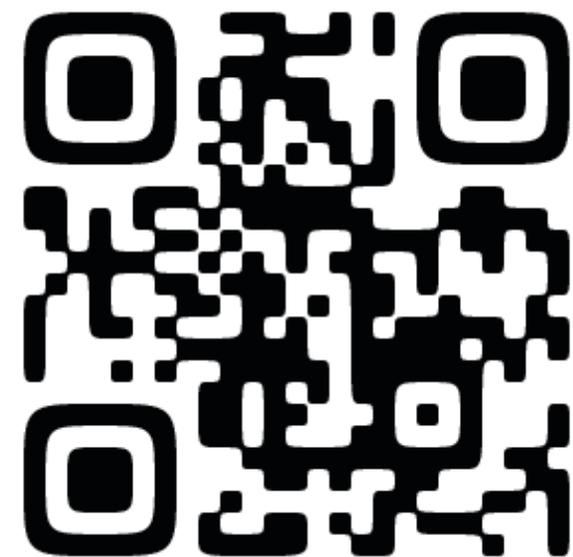
10:00~15:30

一橋講堂 中会議場

学術総合センター2階(千代田区一ツ橋)

オンライン(YouTube Live)

ハイブリッド開催



<https://rdes.rcos.nii.ac.jp/>

「地域の力で切り開く、研究データ管理のこれから」

RDES2025

<https://www.slido.com>

→ アクセスコード: #3362754

- 開催日：2025年10月9日（木）、10日（金）
- 招待講演：

Mr. [Guido Aben](#) 【Senior strategy officer at SUNET】

SUNETは、スウェーデンのNREN
(National Research and Education Network)



[EOSC EU Node](#)について、全体的な側面から技術的な側面まで、現状をより詳しく説明してもらう予定

NII Today 104号 (2025年1月発刊)



<https://www.nii.ac.jp/today/>

「AI等の活用推進」に向けて【1/2】

事業開始時（2022年7月）に想定されていたのは：

「AIやデータ駆動型研究などを含んだ複数のシーズ・ユースケース」の確立。

一方ChatGPTの公開（2022年11月）を機に、「AI活用」の意味は従来と全く異なる次元へと移った。

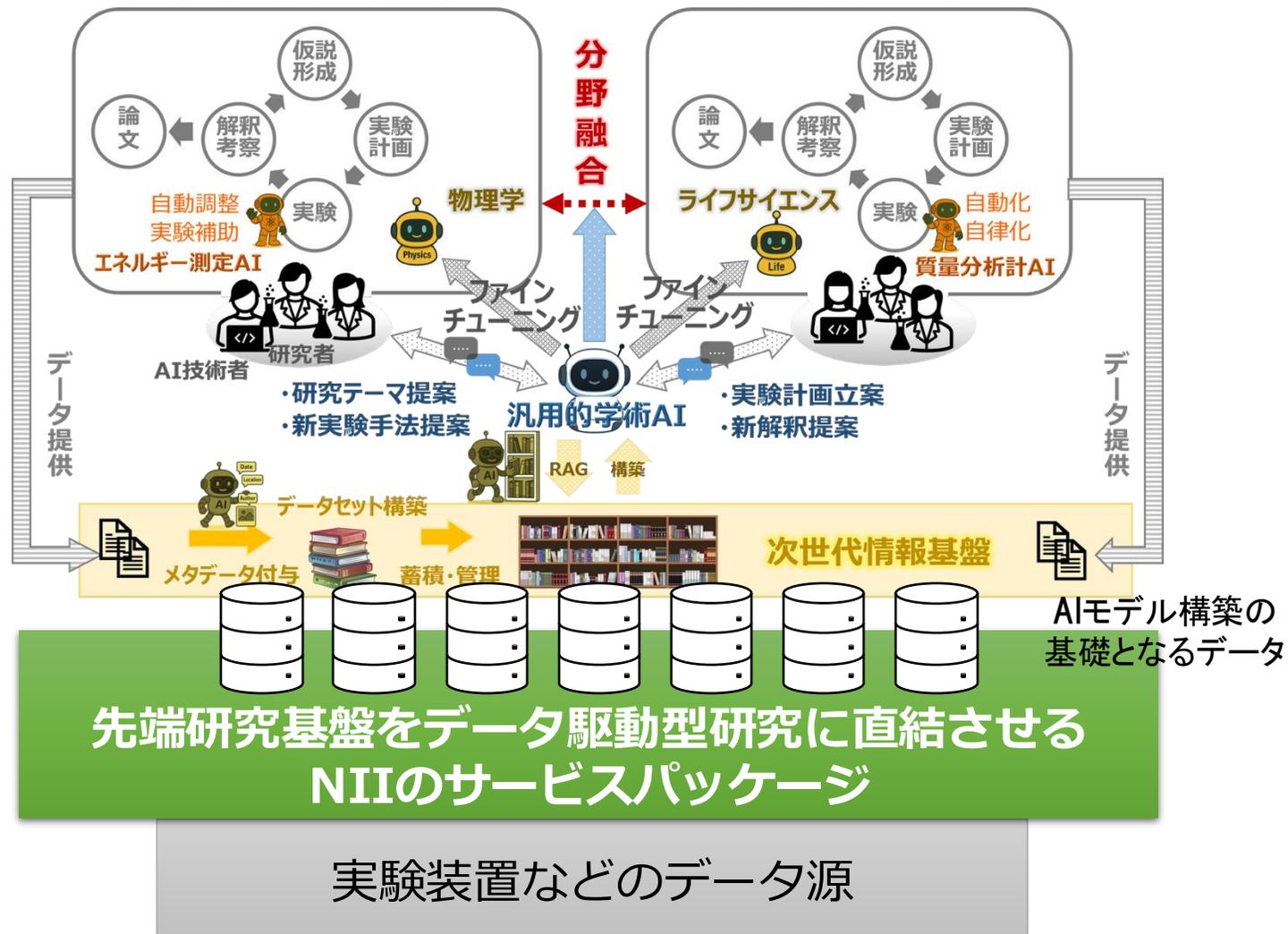
この「AI」の中核はLLMであり、その品質向上には、良質で大量のデータが不可欠。

本事業は、そのデータ整備という意味でも大きな役割を担うこととなった。



「AI等の活用推進」に向けて【2/2】

AI機能付加による学術研究プラットフォームが目指す学術研究のイメージ



まずはデータ

質問・投票



質問はSlidoで受け付けております。
投票もお願いします！

Slido

<https://www.slido.com>

→ アクセスコード: #3362754

Please feel free to contact me anytime.

nakano@nii.ac.jp

https://researchmap.jp/nakano_keiichi